



グローバル展開とモノづくり, 人づくり

Manufacturing and Human Development for Evolving into a Global Corporation

取締役副社長 松本和男

Kazuo MATSUMOTO

世界の自動車生産は、2002年に6,000万台を超え、毎年220万台を超えるペースで増加し、2005年には6,709万台となり、アジア、南米、東欧の増産により4年連続で過去最高を更新している。FOURINの世界自動車統計年鑑では、この傾向は2006年、2007年も継続すると予測している。一方、わが国の自動車生産は、4年連続で1,000万台を超え、2005年は1,080万台となり、安定した状況が続いている。

自動車産業にとって、今後の環境変化としては、まず第一に、世界の自動車台数の増加に伴い、地球温暖化に代表される環境汚染の問題、石油エネルギーの枯渇化、また、交通事故による死傷者の増大など、負の部分のクローズアップである。次に、BRICsと呼ばれる地域での生産増加によるグローバル化の進展である。

これらの課題を解決するために、自動車は大きく変わろうとしている。環境に関して言えば、コモンレールやハイブリッド、さらには燃料電池のように自動車の根幹であった基本動力が変化している。安全ではESC (Electronic Stability Control) やエアバッグはもちろんのこと、レーザレーダによる車間計測や自動回避システム、夜間視認システムのように新しいシステムが装着されるようになっている。情報化では、ナビゲーションシステムがマルチメディアへと進化し、さらには盗難通報のためのカメラアイなども含めた車両情報統合がなされつつある。また、道路情報などとリンクした社会交通システムとも呼応し、発展しようとしている。

グローバル化の進展に関しては、例えば中国である。衣料品メーカーや家電メーカーは、中国での生産にすでに着手しており、成果をあげている。他方自動車メーカー、特に日系メーカーは、中国への進展に関し、今までは知的所有権の問題や製造品質上の問題もあり、慎重な姿勢をとっていた。しかし、ここへ来てその進展は、魅力的な市場規模も与ってか、目を見張るものがある。当社としても、急成長している市場での足場を今のうちに確保し、製品の供給体制をつくっておく必要もあり、同様に進展を加速させている。中国を含めたBRICsと呼ばれる国々でも、状況は同様で

ある。これは自動車の変化というよりは、生産構造の変化というべきである。このような動きに対応していくためには、技術の標準化が必要である。つまり、今まで培ってきたノウハウをルールにまとめ上げ、どこに生産拠点ができて、狙った製品品質を確保できるようにしておくことである。さらには、その土地柄、人柄にあったルールへと微調整し、働きやすい環境に近づけていくことも必要になる。

モノづくりは人づくりと言われるように、急速な海外への展開は、生産拠点立ち上げおよび管理監督のために、国内からの人材支援とともに、現地人材の育成が焦眉の急である。これに伴い、技術開発力の低下を招くという危惧もある。また来年は2007年問題が始まる年であり、さらに人材が払底していくことが懸念される。その意味でも、技術、技能および仕組みの伝承・標準化が急務である。同時に、次世代の核となる人材を、国内はもとより海外でも育成する必要がある。各事業部の推進体制に加えて、国内では、デンソー技研センター、モノづくりDNA推進室がこれにあたり、海外においてはタイおよびアメリカ・テネシーでのトレーニングセンターがそれである。今後世界各地での展開が必要となる。

技術開発の分野においても、製品開発および製造技術開発の中心は、日本国内である。現在、アプリケーション設計の分野についてはヨーロッパおよびアメリカにおけるテクニカルセンターがあり、アジアの拠点の計画も進められている。今後はそれらの拠点が核となり、技術開発の分野まで拡大し、技術人材の育成が期待される。

今回の特集である部品加工技術について、詳細は基調論文で述べられるため、少し小生の思いを述べる。部品加工技術は、一般に、変形、除去、付加、接合などに分類される。中でも、プレス、冷鍛、ダイカスト、樹脂成形などの素形材加工および切削粗加工などは得てして外注化されやすく、完成品になると元の状態が分かりにくくなっており、加工方法、工程順序、工程数の設定の仕方により、コストおよび品質に与える影響は極めて大きい。幸い本特集では、素形材加工、切削、溶接および電子マイクロ加工などの先端研究成果が載せられており、また、デンソーの中では滅びかけようとしていた多軸自動盤の復活もあり、心強いものを感じた。後継者の育成も含め、関係者の研鑽に期待するものである。

最後に、本年は「デンソー技術会」が1956年6月に発足して50周年に当たるが、その1956年は、3月に社是が制定されたという記念すべき年でもあった。2004年4月にデンソービジョン2015が策定され、今後の目標が示された。グローバルデンソーの全従業員が「環境」「安全」「快適」「利便」の分野で、“やさしさ”と“うれしさ”を世界の人々へという目指す姿に向かって進んでいる。社是の精神を受け継いだデンソースピリットの「先進」「信頼」「総知・総力」により、最善を尽くして、デンソービジョン2015が実現することを期待する。